



第143号

宇都宮市立西原小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
栗原 武夫

印刷所
(有)正栄社印刷所

関ブ口栃木大会に向けて

栃木県小学校長会長 栗原 武夫



令和二年度の会長を引き受けることになりました。微力ではありますが、皆様のお力添えをいただきながら精一杯努めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

全国連合小学校長会の今年度からの新たな研究主題「自ら未来を拓き」ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を受け、栃木県

小学校長会では、「自ら未来を創造し」ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営の推進」という新たな活動目標を掲げ、今年度の本会の活動を推進して参ります。

また、令和三年度に本県で開催いたします関東甲信越地区小学校長研究協議会・栃木大会に向け、今年度は実行委員会を立ち上げ、推進委員会や各専門部会を開催しながら、本格的な準備を進めることとなります。栃木大会では、「ともに学

校力を高めながら新しい時代に必要となる資質・能力を育む学校経営」を副主題とし、校長先生方の豊富な経験に基づく実践や英知を出し合い、情報を共有しながら今後の学校経営に生かすことができる有意義な学びの場となるような大会を目指していきたいと考えております。会員の皆様には、本大会の準備・運営などいろいろな立場で関わっていただくことになり、ご負担をおかけいたしますが、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

また、昨年度三月からの新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業につきましましては、各学校でその対応に苦慮していることと思ひます。今までに経験したことのない非常事態への対応に際しては、校長としてのリーダーシップが求められることとなります。このような時だからこそ各地区の校長会が中心となり、市町教育委員会などと連携を図りながら早目の情報提供に努めたり、各学校の情報を収集し情報共有の場を設けたりすることで、各学校で校長が手だてを考えた方針などを決定したりする際に有効な情報発信ができるような役割をしつかりと果たしていくことが大切なのではないかと思ひます。

栃木県小学校長会としても、国の動向や他県の取組状況などに関する情報提供に努めるとともに、県内各地区の校長会の取組状況について情報を共有する場を設け、効果的な情報交換ができるよう努めて参ります。各学校が一層活力ある学校づくりを推進できるよう校長会の運営に力を尽くして参りますので、会員の皆様のご支援・ご協力の程よろしくお願ひいたします。

第七十三回 栃木県小学校長会総会

令和二年度栃木県小学校長会は、五月十四日に県教育会館で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による開催となりました。

代議員から提出された表決書により、「令和元年度事業報告」「令和元年度会計決算報告並びに監査報告」「令和二年度活動目標(案)」「令和二年度事業計画(案)」「令和二年度予算(案)」「会則の一部改正(案)」は、全て承認されました。



令和二年度
活動目標

本校長会は、学校がさらに発展を続けることを目指し、以下の九点を具体目標として、県並びに市町教育委員会や関係機関との関係性を大切にするとともに、校長間のネットワークの一層の活性化を図りながら研究・実践を積み重ね、基本目標の具現化に努める。

《基本目標》

自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す 学校経営の推進

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 学校の働き方改革の推進
- 八 関係諸機関との連携と組織の強化
- 九 関東甲信越地区小学校長研究協議会栃木大会開催準備の促進

地区会長一覽

宇都宮・上三川 丸山 周二

宇都宮市立中央小学校

校長間のネットワークを駆使し、新学習指導要領の円滑な実施や働き方改革の推進、更には新型コロナウイルスへの対応等に主体的・組織的に取り組みます。

上都賀

金子 英利

鹿沼市立中央小学校

日光市と鹿沼市が情報を共有し、考えを交流させながら、よりよい教育活動を創造していきけるような校長会を目指していきたく思います。

芳賀

市村 博美

益子町立七井小学校

一市四町二十八校の校長が連携を図り、積極的な研修や情報交換を通して、学校経営の充実と今日的課題の解決に意欲的に取り組む校長会を目指します。

下都賀

潮田 裕子

壬生町立睦小学校

野木・壬生両町の十三名の校長が、情報を共有し連携を図りながら、心を一つに今日的教育課題に真摯に

向き合い、解決に向け積極的に取り組みます。

下野市

青木 浩美

下野市立石橋北小学校

十一名で常に連携・協力する下野市校長会です。感染症の変災の中にありながらも、地域に根ざした学校経営を目指し、互いの資質と組織力向上に努めます。

小山市

上野 直哲

小山市立大谷東小学校

「手段」が「目的」化していかないかという視点で既存の組織や活動を見直し、真に校長としての資質を高められる校長会にしていきたくと思います。

栃木市

鈴木 廣志

栃木市立太平中央小学校

二十九名の校長の「同僚性と協働性」で多くの課題に立ち向かい、こんな時こそ山本有三の「人権・生命尊重・絆」を核に栃木市の教育に邁進していく覚悟です。

塩谷

坂本美知夫

高根沢町立阿久津小学校
二市二町二十三名の校長

が、会員相互の資質向上を図るとともに、今日的課題の解決に向けて、意欲的に取り組む校長会を目指します。

那須

篠山 充

大田原市立西原小学校

四十五名の会員が、ともに連携・協力しながら自己の資質能力の向上と各学校及び本地区学校教育の諸課題の解決に主体的に取り組む校長会を目指します。

南那須

小泉 浩

那須烏山市立烏山小学校

一市一町八校の会員が、小規模地区のまとまりの良さを生かしながら、地域の課題や今日的課題の解決に向け意欲的に研究に取り組む校長会を目指します。

佐野市

植木 義夫

佐野市立田沼小学校

学校が直面する様々な課題に対し、よりよい解決ができるよう、意見交換をしたり、情報を共有したりしながら、校長会が一丸となつて取り組んでいきます。

足利市

福田 郁男

足利市立山辺小学校

自然に恵まれた歴史と文化のまち、足利市の教育を力強く進めていくために校長会の和とベクトル、そして自学自習の精神を大切にしました校長会を目指します。

令和二年度
役員一覽

会長

栗原武夫 (宇・西原)

副会長

丸山周二 (宇・中央)

副会長

坂本美知夫 (塩・阿久津)

副会長

潮田裕子 (下・睦)

副会長

篠山 充 (那・西原)

書記

渡邊 功 (宇・御幸が原)

書記

宇梶浩明 (宇・桜)

書記

赤坂啓子 (佐・界)

書記

中山玲子 (宇・陽南)

書記

松本和士 (宇・戸祭)

書記

青木浩美 (下・石橋北)

會計

高野和泰 (芳・小貝)

會計

田邊美代子 (南・馬頭東)

會計

上野敏晴 (小・下生井)

會計監査

専門部
活動方針

総務部

部長 磯 弘子
宇・岡本小学校

一 主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

・ 本会の事業推進及び連絡調整
・ 教育懇談会等による対策活動
・ 各部会に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出 (小中学校長会で作成、小学校が取りまとめ)

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理

(六) 全連小三地区対策・調

研担当者連絡協議会に参加 (本県の実情等の発表及び他県の情報収集)

研修部

部長 高野 英司
宇・錦小学校

一 主題

自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営

二 活動方針

全連小大会主題と県小学校長会の基本目標に基づき、活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修計画に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・ 第七十二回全連小京都大会への参加

・ 第六十三回中央研究大会の実施 (研究発表と講演)

※関プロ茨城大会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、中止

(三) 関プロ栃木大会における提案に向けた研究

(四) 研修記録「第六十号」の編集・発行

調査部

部長 佐藤 克一
宇・今泉小学校

一 主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての諸調査及び学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動の内容や方法を調査し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。

(一) 人材育成について (二年次)

(二) 働き方改革について (三年次)

※昨年度に引き続き「人材育成」と「働き方改革」の二つをテーマにして、アンケートの実施を予定しています。

七月月上旬に、調査部会で作成したアンケートをメールで各校へ配信いたします。締め切り期限までに、各地区調査部長へ回答をいただきますようお願いいたします。

調査の結果につきまして、小学校長研修記録「第六十号」に掲載いたしますので、各校の教育活動改善の資料としてご活用ください。

厚生部

部長 鈴木 淑光
宇・泉が丘小学校

一 主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

会員の福利厚生に関する各種事業を推進する。

(一) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(二) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(三) 栃木県小中学校長会慶弔規程に基づく、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※令和二年度は、小学校長会の慶弔会計が県小中学校長会慶弔の会計を担当します。

今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 大門 京子
宇・雀宮中央小学校

一 主題

県小学校長会の活動目標の具現化に関わる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長が今日的課題や当面する学校経営上の諸問題に取り組む際の情報を提供する。

(一) 校長会報の年二回発行 (七月・二月)

・ 特色ある学校づくり

・ 豊かな心を育てる学校経営

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力 (機関紙「小学校時報」など)

(三) 県小学校長会のホームページの運営・管理



主張 改めてこれからの学校の在り方を考える

栃木県小学校長会副会長 丸山 周二



本校の目指す学校像の一つに「子どもにとって、わくわくしながら登校し、満足して下校できる学校」があります。そんな子どもたちにとって当たり前の日常であった学校生活が、ある日突然失われてしまいました。「新型コロナウイルス感染症」の猛威が、県内はもちろん全国、更には全世界を席巻し、今年三月、県内はもちろん全国の学校で臨時休業措置がとられたからです。教育界にとって未だかつて経験したことのない困難な状況に、各学校では、対応に追われる日々が続いています。

性を感じました。

また、長い間、各家庭で、担任のサポートを受けながらも「自ら学び自ら判断し自ら行動」して頑張る全ての子どもの姿は、今年から全面实施となった新学習指導要領が目指している「自ら学ぶ意欲の育成」に通ずるものがあります。このことは、これからの教育や授業の在り方を変えていくための指針になるのではないのでしょうか。

更には、今回の経験をを通して、これまでの学校の「当たり前」や慣行を変えていくことも大切な視点になってきます。学校における教育活動は、「子どもたちのために」という本質はぶれることなく、その内容や方法を検討するきっかけとなればと思っています。

未だ出口の見えない「新型コロナウイルス感染症」の影響ですが、県小学校長会が中心となり、県内の学校や教育委員会等の関係諸機関と連携・協働しながら、この難局を乗り越えていきたいと思えます。

主張 今思うこと

栃木県小学校長会副会長 坂本 美知夫



現在(五月十四日執筆)、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、日本は緊急事態宣言を出し感染拡大の防止に努めている。

全国のほとんどの学校で臨時休業措置を取っており、これまでの学校にあった当たり前の日常が失われている状況である。子どもたちのいない不思議な学校で、我々教職員は休業に伴う子どもたちの健康確認や学力保障等の対策に追われる毎日である。

さて、こんな状況だからこそ思うことが二つある。

まず、校長としてのリーダーシップの発揮である。

改めて「子どもたちの命を守ること」を最優先に考えて学校経営に当たらなければならないと再認識している。そのためには、常に正しい情報を収集し、国や県、町の施策を踏まえ、これまで以上に高い危機管理意識をもって各種対応にリーダーシップを発揮してい

くことが必要である。

次に、教育活動の見直しについてである。

学校に求められることが増大し、教員の多忙化が問題となってきた。そこで、これまでの教育活動を整理・再編成するいわゆる「スクラップ&ビルド」の必要性が叫ばれてきたが、長年営まれて来た行事を削減したり見直したりすることはなかなか困難なことであった。

しかし、今回の感染拡大防止の観点から、学校行事や日々の教育活動を大幅な見直しを図って実施することとなったが、その際には学校教育目標の実現や学校課題解決の観点からも本当に必要な教育活動を精選するなどの見直しを図る良い機会にもなったのである。

近いうちに大きな感染の広がりは終息し、学校も通常に近い教育活動が実践できる日々が来ることを祈っている。

大きな犠牲を払ったからこそ得られる今回の教訓を、これからの教育実践に生かしていきたいと考えている。

自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子どもを育成を目指す学校経営

地域とともに進める教育活動

野木町立野木小学校 飯島 快尚

一 野木小学校について

本校は、明治六年九月に乾時(けんじ)学舎と称し、旧野木宿及び十一か村の連合学舎として大字野木に発足しました。学区は栃木県最南端に位置し、渡良瀬遊水地に隣接しています。本年度で創立百四十七年目となり、児童数百三十四名の歴史と伝統のある小規模の学校です。本校の学校教育目標及び教育指標は、○つよく健康でねばり強い子 ○あかるく心豊かな子 ○いきいきと進んで学習する子 です。

二 地域とともに進める教育活動 「学ぶ楽しさを実感させる教育活動の展開」を実現し、組織的に経営することを基本方針とし、日々教育活動に取り組んでいます。

地域の皆様、保護者の皆様が、学校の教育活動に対してとても協力的な地域です。このような地域の資源を活用し、目標やビジョンを地域と共有し、地域とともに教育活動を進めています。年間を通

して、学校支援ボランティアによる活動が行われています。学校行事では、運動会に向けて、ラジオ体操や野木町音頭の指導にたくさんボランティアが来てくださいます。また、毎年十月に、野木小つ子まつりを実施します。バザーも兼ねて保護者や祖父母、地域の方々をお招きし、子どもたちの出し物や作品などを見ていただいています。

野木小つ子まつりでは、全校児童を九つの縦割りグループに分け、体験活動(物づくり)を通して、ボランティアから指導を受け、交流を深めていきます。昨年度は十九名の協力をいただきました。これからも家庭や地域との連携・協働を、より推進していきたいと思えます。



体験活動 (よしず編み)

関第一主義米と同じように関東でも一番の子どもたちに

栃木市立南小学校 阿部 誠

一 建学の精神「関第一主義」

「関第一」。この言葉は、校舎建設時に関東でも有数の米処であった栃木市沼和田の田圃を、校舎建設の敷地として、提供してくださった地域の方々の願いを表した言葉である。「米と同じように関東でも一番の子どもたちになれ。」という願いがこめられている。この想いは「豊かな大地に夢育む」として、子どもたちの「健やかな心身の育成」及び「一人一人が輝く学校づくり」という学校経営の基軸と方向性を示す基盤となっている。

二 運動と勉強の両立

「学習と運動を両輪とした教育活動の展開」は本校教育の最大の特徴である。授業を基盤とした確かな学びを育む教育では、特に話す・聞く力を育成する。体育授業・業間体育・課外活動を基盤とした教育では、たくましい心と体を育むだけでなく協力や忍耐、奉仕などを学び豊かな心を育む。

三 職員室が学校を経営する

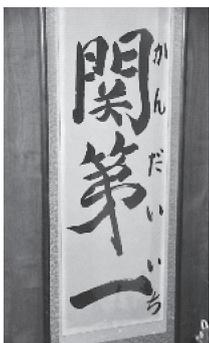
職員室が働きやすい環境になっ

てはじめて、全ての教育活動が学校経営方針に向かって営まれる。『住めば都』の如く環境に慣れた結果、働きやすい環境になるのではない。職員一人一人が高い志を抱いて、家族的なつきあいをしながら自己研鑽を続けて、働きやすい環境を作ることが肝要である。

さらに、職員一人一人が情報の共有と意思の疎通を常に心がけながら、機能的な職員室を築き上げることも学校経営の原動力となる。

四 いいまちにはいい学校がある

いい学校はいいまちをつくる。学校・家庭・地域が相互に連携しながら、ふるさとへの愛着と誇りを育む「ふるさと学習」を推進する。体験的な学習を積極的に取り入れ、学校支援ボランティア等との協働や地域の教育資源を活用することに努める。(栃木市が推進する『とちぎ未来アシストネット』の活用)



特色ある学校づくり

恵まれた緑の故郷を知り、守る心を育てる

宇都宮市立白沢小学校 岡田 至弘

「谷川って知ってる？」これは総合的な学習の時間、五年生の単元名である。地域にある谷川の様々な自然の様子を観察することを通して、豊かな自然が残っている理由やそれを守る活動に関心をもつことを目的にしている。

昨年七月十六日、白沢小五年生四十八名と宇都宮白楊高等学校農業工学科の二、三年生三十四名が下ヶ橋地区（にほんの里一〇〇選）「とちぎのふるさと田園風景百選」に選定）にある峰下橋周辺に集合した。その他にもこの地区の自然保護活動に取り組んでいる「アグリネット西下ヶ橋」、「NPO法人グラウンドワーク西鬼怒」の方々が協力者として参加し総勢約百名。普段、人っ子一人見かけない田園風景が一変した。

早速水路に入り、網を使って生き物を探す。ドジョウやモツゴなどが見つかる度に、あちこちから歓声があがる。夢中になりどんどん上流に進む児童もいれば、友達と手を取り合いながら恐る恐るミズカマキリに触れる児童もいる。実は、川に入って生き物をつまめることが初めての児童がほとんど



である。だが、児童は皆キラキラの笑顔である。

水路からあがり、高校生が生き物の名前や生態などを詳しく説明してくれ、児童は熱心にメモを取る。協力者が事前に採取してくれていた珍しいギバチやコオイムシが入った水槽の前には多くの人だかりが暫く続いた。その後、班に分かれ、保護活動・歴史などを協力者に質問したりシラサギを観察したりオニヤンマを捕獲したりするなどして時間があっという間に過ぎた。

数日後、今回の調査のまとめを行い発表する時間。ある班の発表の最後に「生き物の命を守るために多くの人が谷川の自然に関わっていることを知った。ごみが落ちていたらしっかりと拾いたい。」との感想があった。

地域のよさを生かした学校づくり

那珂川町立馬頭小学校 岡安 正弘

一 はじめに
本校は昭和・平成の時代に近隣の小学校七校が順次統合され現在に至っている。目指す学校像は「あいさつ、笑顔、元気」あふれる学校。

そして、少子化高齢化が加速している地域にある学校として「地域を活性化できるのは地域に愛されて育った子どもたち」との理念の下、地域連携教育を推進している。

二 事例の紹介

(一) 高等学校との連携

学校のほど近くに全国唯一の内水面（湖沼や河川対象）水産科をもつ県立馬頭高校がある。二年生は「生活科」の学習で水産科実習場へ行き、水槽の生き物観察や武茂川に生息している淡水魚やチョウザメなどの養殖魚とのふれあいをしている。また、四年生では「総合的な学習」で実習場に隣接しているピオトープで微生物を採取したり、隣の武茂川で水質検査などをしたりしている。いずれも講師となるのは水産科の先生と生徒であり、児童にとっては生きた学習となり、生徒にとっては水産科で

の学習が生かされるなど互恵関係になっている。

(二) 美術館との連携

学校の隣には限研吾氏設計の「馬頭広重美術館」がある。毎年希望者を募って、昼休みに「美術館鑑賞ツアー」を実施している。毎回盛況である。美術館では、学芸員やボランティアの方が浮世絵の見方や技法の素晴らしさなど説明してくれている。

三 おわりに

地域には「もの」や「こと」、「ひと」など教育の素材となる資源がたくさんある。しかし、それらは初めから見えるものではなく、掘り起こすことによって、「先生」となり「教室」となるのではないかと。そして、それらを生かすことによって本校の役割である質の高い教育の提供と地域課題の解決に寄与できるのではと考えている。




 Cosmos
 
 栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長

音頭 玲子

栃木県女性校長教頭会は、しなやかな思考による学校経営や確かな教育の創造を目指して研鑽を積むことを目的として、公立小・中学校及び義務教育学校の女性校長百十一名、教頭副校長二百三名で今年度の活動がスタートしました。

大変残念なことに、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、五月に予定していた総会・第一回研修会を中止とすることとなつてしまいました。このようなときこそ、まさにしなやかな思考が求められるのだと、学校経営への責任と決意を新たにしております。

私たちは、令和二年度の研究主題を「未来を拓き心豊かにたくましく生きる日本人を育成する学校教育の推進」日本文化に誇りをもち、共に学び未来社会を切り拓く力を育む学校経営」としました。

今年度も機会を捉えて研鑽に励み、児童生徒の豊かでたくましい心の育成に努めていく所存です。

同時に男女共同参画社会の真の実現に向けて女性教員の資質向上のため、活動を展開して参ります。


 「とちぎの子どもたちの
学力向上に向けて」

栃木県教育委員会

今年度の「とちぎっ子学習状況調査」は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校の臨時休業を踏まえて中止となりましたが、六月に、各学校に調査問題を送付いたしましたので、学習内容の確実な定着に向けて活用いただきたいと考えております。

これまでの六年間のプロジェクトを通して、児童生徒の確かな学力の定着に当たっては、各種調査結果から自校の強みや課題を経年で捉え、学校全体で教育指導の改善・充実を図ることが重要であることを改めて確認することができました。そこで、昨年度の学力向上改善レポートによる検証を今年度の取組に反映させるなど、引き続き、取組を活性化させていただきたいと思えます。

今後とも、補充のための授業や補習を実施したり、家庭学習を適切に課したりするなど、児童生徒の学びを保障するための指導や支援をお願いいたします。

令和二年度

関ブ口理事会だより

栃木県小学校長会副会長

丸山 周二

五月八日に開催を予定していた第一回理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から文書開催となりました。

一 会長あいさつ文要旨

・関ブ口茨城大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、大会誌配付のみの開催となる。

・新型コロナウイルス対応で、当たり前のことが当たり前にできない苦しさの中、関ブ口校長会が連携し、英知を結集してこの危機を乗り越えていきたい。

二 協議

○令和元年度会務、会計、監査報告

○令和二年度役員選出

- ・会長（栃木県 栗原武夫）
- ・幹事（栃木県 丸山周二）
- ・幹事（栃木県 吉成隆志）
- 令和二年度事業計画案、予算案
- 第七十二回関ブ口茨城大会
- ・大会誌発行により開催に代える
- 第七十三回関ブ口栃木大会
- ・令和三年六月十七・十八日
- 第七十四回関ブ口群馬大会他
- ・令和四年六月九・十日

・栃木県から三十六名参加予定

・栃木県から二発表予定

協議事項は、紙面決議にて全て承認されました。

 「全国連合小学校長会
第七十二回総会・研修会から」

栃木県小学校長会長

栗原 武夫

五月二十七日に開催を予定していた第七十二回総会・研修会は、新型コロナウイルス感染症防止のため、東京に参集しての開催は中止となり、議事のみ紙面総会という形での開催となったため、研修として予定されていた文部科学省初等中等教育局長からの講演や、文部科学省からの行政説明は行われなかった。

総会では、令和元年度の報告（会務報告、事業報告、監査報告）と、議案として本年度の活動方針、事業計画、予算案、宣言決議に関するものが挙げられ、紙面決議において全て承認された。

四月、五月の全連小の各種会議は、紙面での会議、承認という形で行われた。六月以降の会議や行事なども変更になり、十月二十九日、三十日で開催する予定であった第七十二回研究協議会京都大会についても紙面での開催とすることになった。また、令和二年度の活動方針に加え「新型コロナウイルス対応下の全国連合小学校長会活動方針」を策定し、本会の職能団体としての機能を果たしていくために、新たな活動方針を付加し、取り組んでいくこととした。

話題の広場

地域の力で学校が活きる

下野市立細谷小学校 蓬田みどり

本校は今年創立百四十七年目を迎える。本地区はその昔、養蚕が盛んで桑畑が青々と広がっていた。現在では多くが田畑に変わり、また、造園用としての苗木があちこちに見られる。保護者世代とともに働く高齢者の方は皆、明るく矍鑠とされている。

本校は小規模特認校として、市内のどこからでも入学可能な制度をもつ学校である。本年度は四十九名の児童のうち、十九名の児童が学区外から通学している。

豊かな自然に囲まれた本校ならではの教育活動になくてはならないのは、地域の力である。春には「いちご狩り」、夏には「ブルーベリー」、秋は「梨狩り」を全校児童で楽しむ。農園での野菜作りに講師として苗植えから収穫まで見守ってくださる。校庭の樹木の伸びを気にかけて、いつの間にか剪定を。

地域の温かい協力で改めて感謝である。今後も地域ともにある学校づくりを推進していきたい。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長 丸山美江子

今年度より新たに県小学校長会の会員になられた校長先生方、ご昇任誠にありがとうございます。

運営拠出金委員会は、校長会の主体的な活動の充実強化を図ることにより、校長の地位確立、職責の遂行を目的として設けられました。このような活動を支えるため、

新加入の皆様より運営拠出金をいただいております。本委員会ではこれらの保管と管理を行っております。

現在は、令和三年度開催予定の関プロ栃木大会に向けて、準備資金や開催資金を積み立てることを主な取組としております。

昨年度同様、今年度も開催のための準備金を支出する予定となっております。また、関プロ栃木大会以降も、県校長会七十五周年行事などが予定されており、そのための資金も積み立てております。

会員の皆様におかれましては、現状をご理解の上、ご協力の程お願い申し上げます。

県小学校長会事務局だより

事務局長 吉成 隆志

四月七日に新型コロナウイルス特措法に基づく緊急事態宣言が出され、外出自粛の要請や学校の休校延長、イベントの開催自粛などの措置がとられていることを鑑み、令和二年度の県小学校長会の事業についても運営方法や事業そのものの見直しを行いながら進めていきたいと考えています。

年度当初の理事研修会は三つの密を避けて行い、新役員の承認や定期総会(代議員制)を文書開催とする案を決議しました。今後の会議の開催については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と校長先生方の安全を第一に考えて、慎重に検討していきたいと思っております。厳しい状況下ですが、令和三年度に開催される関プロ栃木大会に向けて準備を推進しなければなりません。

栃木県小学校長会事務局は、今年度も吉成事務局長と高柳事務局員です。勤務は九時～十六時です。不在の場合は留守電設定にさせていただきますので用件をお話しく下さい。

編集後記

緊急事態宣言が五月三十一日まで延長された。本校も三十一日まで休校となった。当たり前のことを当たり前にできることがいかに幸せなことであるかを今は痛感している。子どもたちに授業を行えない学校に勤務しているのは本当にさびしい。

しかし、嘆いてばかりもいられない。本校の先生方とはにかくできることをしようと前向きに動いている。子どもたちに電話をし、明るい声で励ましている。また、ビデオメッセージを作成し、インターネットにアップした。その中でこう呼びかけた。「離れていても心はつながっているよ。」

小学校長会にもつうじる言葉である。



さくら市立南小学校 沼尾 昇